

令和6年度第4回岐阜市一般廃棄物処理施設用地選定委員会
議事次第

日 時 令和6年8月21日(水)
14時00分～15時00分(予定)
場 所 岐阜市役所10階 10-2会議室

1 開会

2 報告及び協議事項

評価及び最終候補地選定 資料1

3 閉会

【配付資料】

議事次第(本紙)

座席表及び委員名簿

岐阜市一般廃棄物処理施設用地選定委員会規則

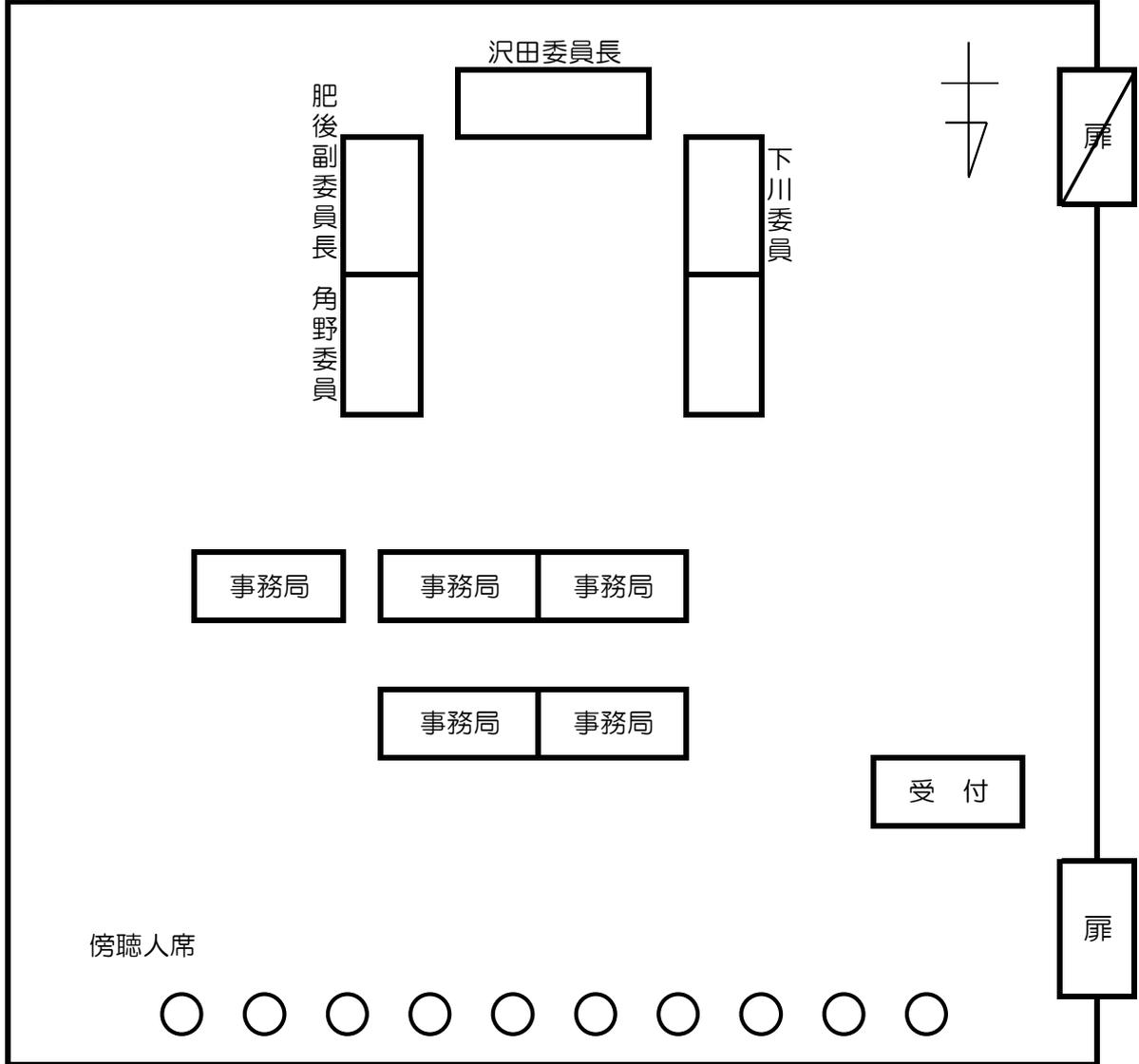
資料1 評価及び最終候補地選定(案)

参考資料 評価項目及び評価基準について

《第4回岐阜市一般廃棄物処理施設用地選定委員会 座席表及び委員名簿》

令和6年8月21日（水）
 14時00分～15時00分（予定）
 岐阜市役所10階 10-2会議室

座席表



委員名簿

所 属	役 職	氏 名
岐阜大学 工学部附属インフラマネジメント技術研究センター	教 授	沢田 和秀
岐阜中央森林組合	専務兼支所長	下川 吾朗
岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科	教 授	角野 晴彦
岐阜大学社会システム経営学環	特任教授	肥後 睦輝

(50音順・敬称略)

○岐阜市一般廃棄物処理施設用地選定委員会規則

平成28年 3月25日

規則第22号

改正 令和 6年 3月31日規則第11号

(趣旨)

第1条 この規則は、岐阜市附属機関設置条例(平成25年岐阜市条例第7号)第3条の規定に基づき、岐阜市一般廃棄物処理施設用地選定委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、必要の都度、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 各種団体等が推薦する者
- (3) 前2号に掲げる者のほか、市長が適当と認める者

(任期)

第3条 委員の任期は、委嘱の日から諮問に係る調査及び審議が終了するまでとする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 議長は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(守秘義務)

第6条 委員は、職務上知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、環境部環境施設課において処理する。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成31年規則第4号）抄

(施行期日)

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和6年規則第11号）抄

(施行期日)

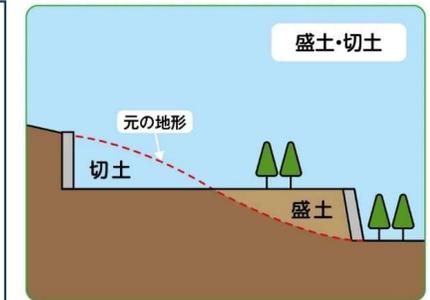
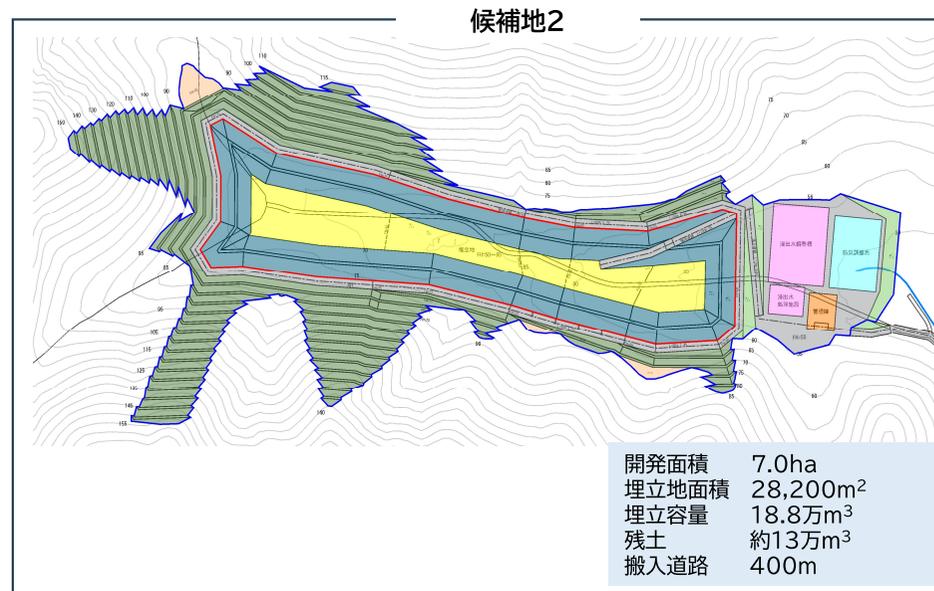
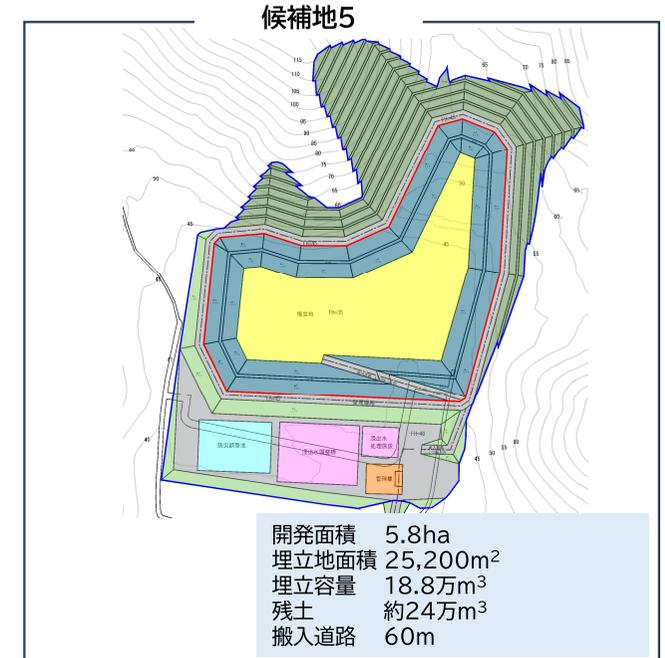
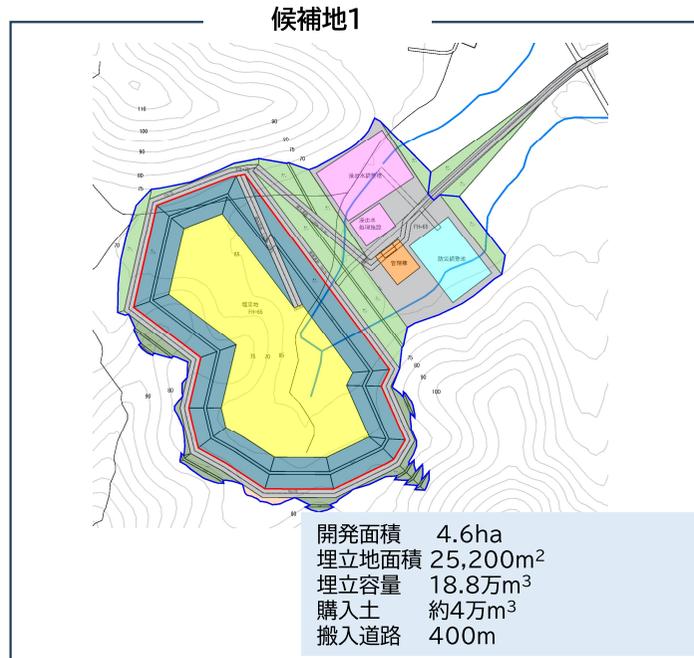
1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。

1.各候補地の航空写真



2.配置計画図の比較

3箇所の候補地を比較すると、候補地1が最も少ない開発面積で埋立容量の確保が可能となりました。また、他の候補地と比べ土量バランスが最も優れています。
 候補地2は、埋立容量18.8万 m^3 を確保しようとする、開発面積が7ha必要になります。
 候補地5は、搬入道路が最も短くなりますが、平地で埋立容量を確保するのに大量の切土が発生するため、残土が多く、土量バランスを図るのが難しくなっています。



盛土・切土 イメージ図

- 凡例
- 開発面積
 - 埋立地面積
 - 埋立地面
 - 埋立地面
 - 管理棟
 - 浸出水処理施設等
 - 防災調整池
 - 道路
 - 外周切土法面
 - 外周盛土法面
 - 外周平地

3. 各候補地の評価結果

評価結果

区分	評価項目	候補地1	候補地2	候補地5
土地条件	土地利用	◎ 配置計画図の大部分が山林であり、一部休耕地等であるが、最終処分場の建設に支障となる土地利用はされていない土地である。	◎ 配置計画図の大部分が山林であり、最終処分場の建設に支障となる土地利用はされていない土地である。	◎ 配置計画図の大部分が造成跡地で、現状は山林であるが、最終処分場の建設に支障となる土地利用はされていない土地である。
	土地所有者	△ 全て私有地である。	△ 全て私有地である。	△ 全て私有地である。
自然条件	地形の状況	◎ 配置計画図内に崩壊地形が確認できない。	△ 配置計画図北側の山体に崩壊地形が確認できる。	◎ 配置計画図内に崩壊地形が確認できない。
	地質の状況	△ 配置計画図内に軟弱層が存在している可能性があり、沈下等が起こる可能性が高い。	△ 配置計画図内に軟弱層が存在している可能性があり、沈下等が起こる可能性が高い。	△ 配置計画図内に軟弱層が存在している可能性があり、沈下等が起こる可能性が高い。
	希少動植物の確認状況	○ 配置計画図から500mの範囲において希少動植物が生息・生育する可能性があるが、候補地内では確認されていない。	△ 配置計画図内で希少動植物が確認されている。	○ 配置計画図から500mの範囲において希少動植物が生息・生育する可能性があるが、候補地内では確認されていない。
	自然の改変度	○ 植生自然度の高い植生の占める割合が10%（30%未満）であり、建設に伴う自然環境に与える影響は小さいと考えられる。	○ 植生自然度の高い植生の占める割合が28%（30%未満）であり、建設に伴う自然環境に与える影響は小さいと考えられる。	○ 植生自然度の高い植生の占める割合が15%（30%未満）であり、建設に伴う自然環境に与える影響は小さいと考えられる。
	集水面積	◎ 集水面積は21.7haで最も狭いため、雨水対策の規模は、他の候補地と比べ小さくなると考えられる。	△ 集水面積は26.8haで平均値(25.7ha)より広いため、雨水対策の規模は、候補地1と比べ大きくなると考えられる。	△ 集水面積は28.5haで最も広いため、雨水対策の規模は、他の候補地と比べ大きくなると考えられる。
環境条件	生活環境への影響	○ 配置計画図から500m範囲の建物数は32棟あるが、平均値(82棟)よりは少ない。	◎ 配置計画図から500m範囲の建物数は22棟で、他の候補地と比べ最も少ない。	△ 配置計画図から500m範囲の建物数は191棟で、他の候補地と比べ最も多い。
	公共施設等（学校・病院等）との距離	◎ 配置計画図から300m範囲に公共施設等の建物は、存在しない。	◎ 配置計画図から300m範囲に公共施設等の建物は、存在しない。	△ 配置計画図から300m範囲に公共施設等が1施設存在する。
条 運 件 搬	運搬効率	△ 廃棄物排出量と運搬距離の積が158kt・km/年であり、他の候補地と比べ最も劣る。	△ 廃棄物排出量と運搬距離の積が147kt・km/年であり、平均値(146kt・km/年)より若干劣る。	◎ 廃棄物排出量と運搬距離の積が134kt・km/年であり、他の候補地と比べ最も優れる。
経済性	施工性	◎ 購入土量が約4万m ³ であり、他の候補地と比べ土工量が少なく、切土と盛土の土量バランスが図りやすい。	○ 切土が多く、盛土が少ないため、残土が約13万m ³ 発生するが、平均値(134,500m ³)より少ない。	△ 切土が多く、盛土が少ないため、残土が約24万m ³ 発生し、他の候補地と比べ最も劣る。
	施設整備費・維持管理費（施設終了まで）	◎ 埋立容量あたりの単価が49,000円/m ³ であり、他の候補地と比べ最も優れる。	△ 埋立容量あたりの単価が59,000円/m ³ で平均値(57,000円/m ³)より若干劣る。	△ 埋立容量あたりの単価が63,000円/m ³ であり、他の候補地と比べ最も劣る。
配点：◎2点、○1点、△0点		15	8	8

評価及び最終候補地選定（案）

4-1. 評価根拠

土地条件：土地利用

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
土地利用	現地及び空中写真による土地利用状況を確認	◎：配置計画図内が、休耕地等であり、土地利用されていない △：配置計画図内が、宅地・農地等であり、土地利用されている

評価結果

候補地	評価	土地利用状況
1	◎	山林・一部休耕地
2	◎	山林
5	◎	山林(造成跡地)



4-2. 評価根拠

土地条件：土地所有者

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
土地所有者	配置計画図内の 公有地、私有地を確認	◎：公有地 ○：公有地私有地混合 △：私有地

評価結果

候補地	評価	土地所有者状況	土地筆数
1	△	私有地	39筆
2	△	私有地	18筆
5	△	私有地	22筆

4-3. 評価根拠

自然条件：地形の状況

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
地形の状況	配置計画図内の崩壊地形の有無を確認	◎:配置計画図内に崩壊地形が認められない △:配置計画図内に崩壊地形が認められる

評価結果

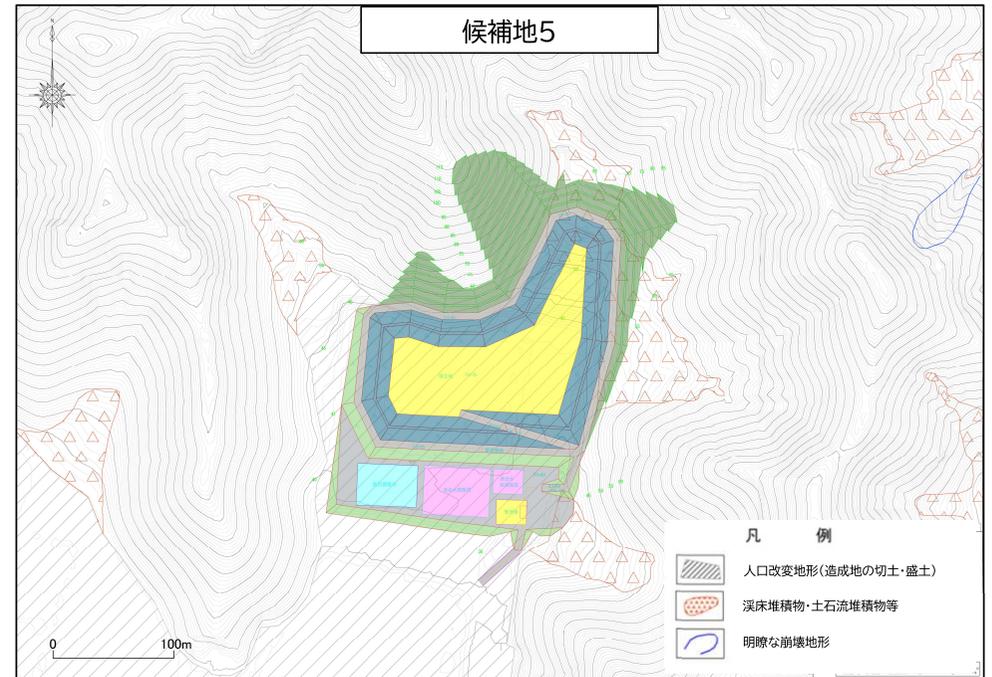
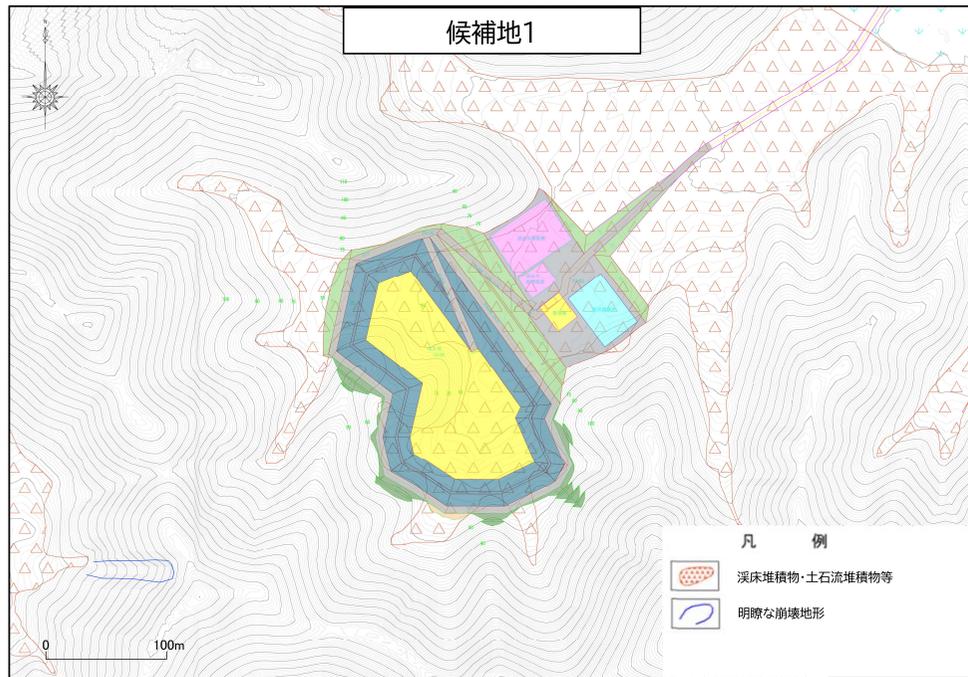
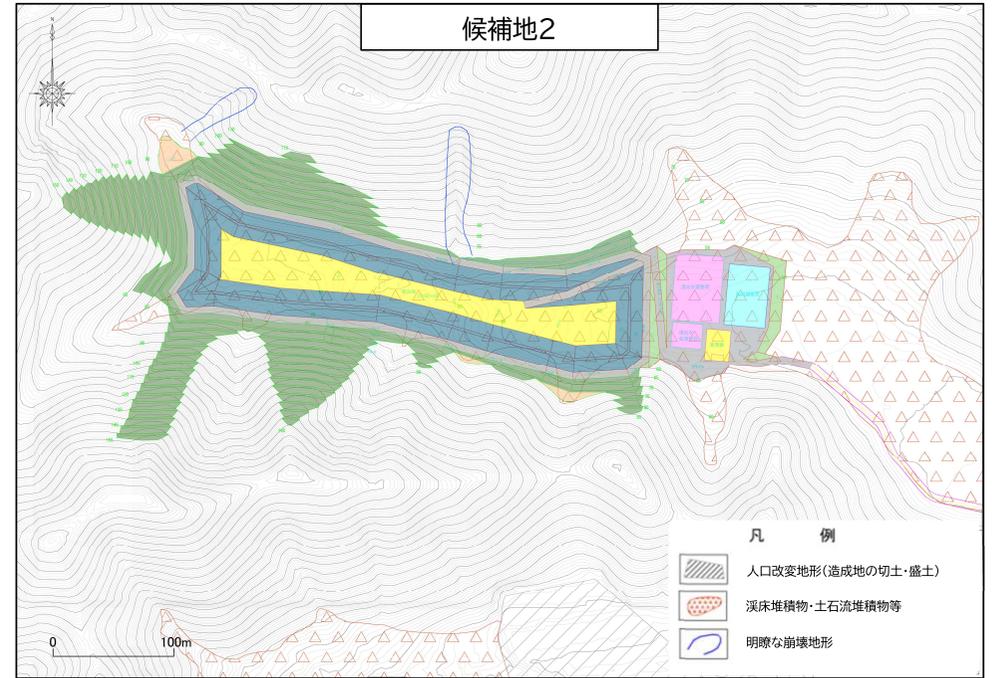
候補地	評価	地形の状況	地形判読
1	◎	・西側と南側からの谷が合流する箇所、谷底には広い谷底低地が形成されている。 ・山体は大きく、傾斜が急である。	配置計画図内に崩壊地形が確認できない。
2	△	・直線状の谷が東方へ流下する箇所、谷底には狭長な谷底低地が形成されている。 ・両岸の山体は大きく、傾斜が急である。	配置計画図内に崩壊地形が確認できる。
5	◎	・幅広い谷が南方へ広がる箇所、両岸の山体は大きく、傾斜が急である。 ・平坦部は造成地であり、現状は樹木が繁茂している。	配置計画図内に崩壊地形が確認できない。

谷底低地:山地や丘陵を刻む河川の堆積作用により谷底に形成された低地

崩壊地形:過去に地すべり、山くずれ、雪崩などによって崩壊した地形

溪床堆積物:溪流の底部に堆積した物

土石流堆積物:土石流による流動物が溪床やその下流に堆積した物



4-4. 評価根拠

自然条件：地質の状況

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
地質の状況	配置計画図内の軟弱地層の有無を確認	◎：経年の堆積物等がなく、地質が強固で沈下等が起こる可能性が低い △：経年の堆積物等が存在し、地質が軟弱で沈下等が起こる可能性が高い

評価結果

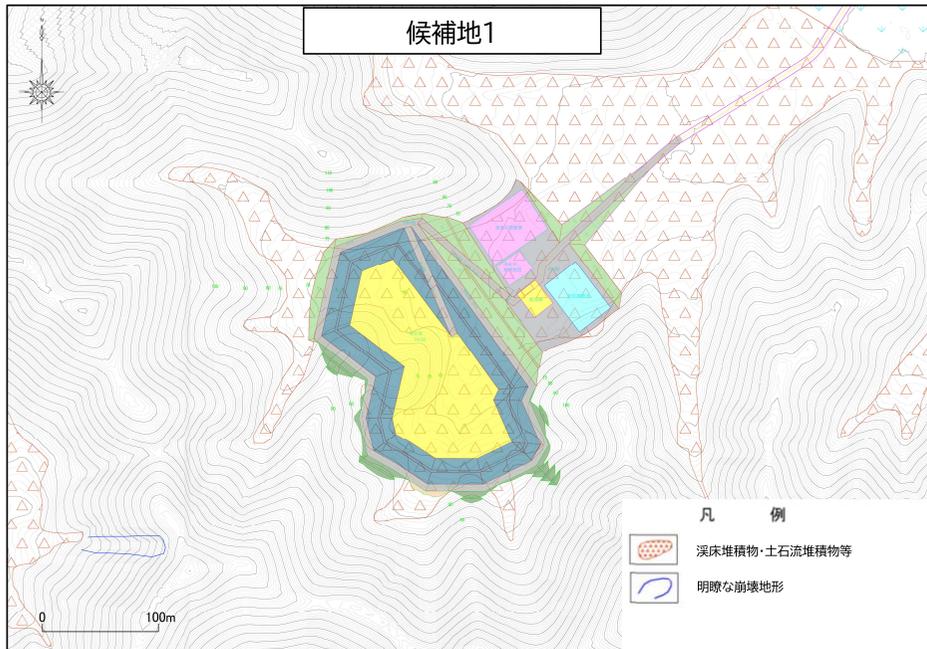
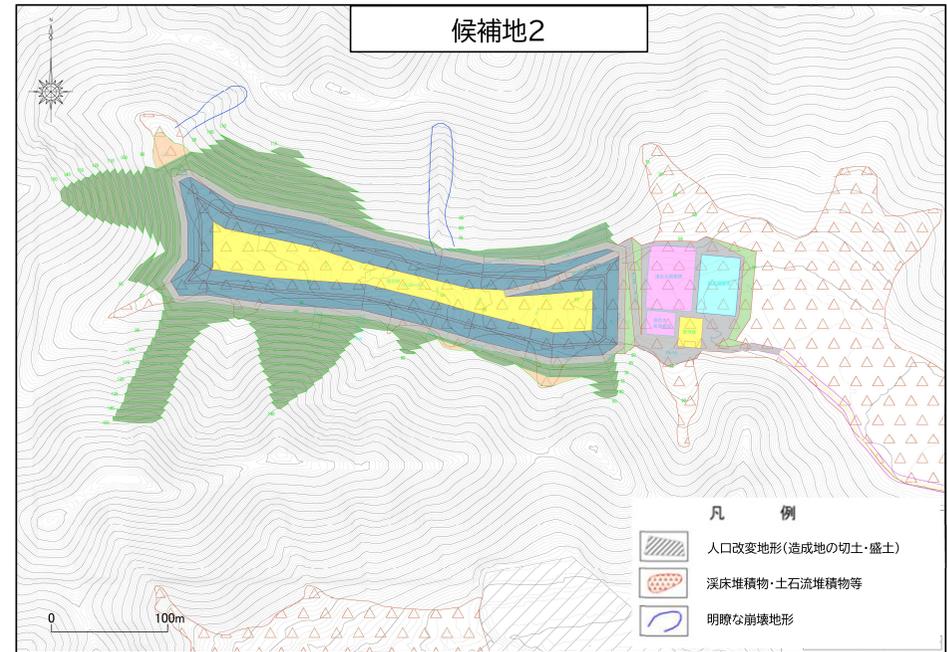
候補地	評価	地質の状況	軟弱地層の有無
1	△	・谷底低地には礫・砂・泥が堆積する。 ・沢部には土石流堆積物等の分布が確認できるため、軟弱地層が存在している可能性があり、沈下等が起こる可能性が高い	有
2	△	・谷底低地には礫・砂・泥が堆積する。 ・沢部には土石流堆積物等の分布が確認できるため、軟弱地層が存在している可能性があり、沈下等が起こる可能性が高い	有
5	△	・谷底低地には礫・砂・泥が堆積する。 ・沢部には土石流堆積物等の分布が確認できるため、軟弱地層が存在している可能性があり、沈下等が起こる可能性が高い	有

谷底低地：山地や丘陵を刻む河川の堆積作用により谷底に形成された低地

崩壊地形：過去に地すべり、山くずれ、雪崩などによって崩壊した地形

溪床堆積物：溪流の底部に堆積した物

土石流堆積物：土石流による流動物が溪床やその下流に堆積した物



評価及び最終候補地選定（案）

4-5. 評価根拠

自然条件：希少動植物の確認状況

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
希少動植物の確認状況	希少動植物の生息・生育(岐阜市の自然情報(岐阜市自然環境基礎調査))を確認	◎: 配置計画図内及びその周辺(500mの範囲)において希少動植物が生息・生育する可能性が低い ○: 配置計画図周辺(500mの範囲)において希少動植物が生息・生育する可能性が高い △: 配置計画図内及びその周辺(500mの範囲)において希少動植物が生息・生育する可能性が高い

※岐阜市の自然情報(平成26年)
岐阜市自然環境基礎調査(平成21年～平成25年)

評価結果

候補地	評価	希少動植物の確認状況	
		配置計画図内	配置計画図周辺
1	○	確認なし	【両生類】 アカハライモリ、ヤマアカガエル、アズマヒキガエル 【昆虫類】 ギフチョウ、タガメ、マルガタゲンゴロウ 【陸産貝類】 ヤマナメクジ 【魚類】 ホトケドジョウ、ミナミメダカ 【淡水産貝類】 オオタニシ
2	△	【魚類】 ホトケドジョウ	【両生類】 アカハライモリ、ヤマアカガエル、アズマヒキガエル 【昆虫類】 ギフチョウ、タガメ、マルガタゲンゴロウ 【陸産貝類】 ヤマナメクジ 【魚類】 ホトケドジョウ、ミナミメダカ、ヤリタナゴ 【淡水産貝類】 イシガイ、マシジミ、マツカサガイ東海固有種 【植物】 タウコギ
5	○	確認なし	【両生類】 ナゴヤダルマガエル 【昆虫類】 アオハダトンボ 【魚類】 ホトケドジョウ、ミナミメダカ 【植物】 ヒメコウホネ、サギソウ

【評価に用いた希少動植物の選定基準】

■法律、条令に基づく選定基準

- ①「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」
 「国際希少野生動植物種」、「国内希少野生動植物種」、「緊急指定種」に該当する種
 (平成4年,法律第75号)
- ②「文化財保護法」
 「特別天然記念物」、「国指定天然記念物」、「県指定天然記念物」、「市指定天然記念物」に該当する種
 (昭和25年,法律第214号)
- ③「岐阜県希少野生生物保護条例」
 「指定希少野生生物」に該当する種
 (平成15年,条例第22号)
- ④「岐阜市自然環境の保全に関する条例」
 「貴重野生動植物種」に該当する種
 (平成15年,条例第20号)

■レッドリスト、レッドデータブックに基づく選定基準

- ①「環境省レッドリスト2020の公表について」
 「絶滅危惧ⅠA類」、「絶滅危惧ⅠB類」、「絶滅危惧Ⅱ類」に該当する種
 (令和2年,環境省)
- ②「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)改訂版ー岐阜県レッドデータブック(動物編改訂版ー)」
 「絶滅危惧Ⅰ類」、「絶滅危惧Ⅱ類」に該当する種
 (平成22年,岐阜県)
- ③「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物(植物編)改訂版ー岐阜県レッドデータブック(植物編改訂版ー)」
 「絶滅危惧Ⅰ類」、「絶滅危惧Ⅱ類」に該当する種
 (平成26年,岐阜県)
- ④「岐阜市の注目すべき生きものたち 岐阜市版レッドデータブック ブルーデータブック」
 「絶滅危惧Ⅰ類」、「絶滅危惧Ⅱ類」に該当する種
 (令和5年,岐阜市)

4-6. 評価根拠

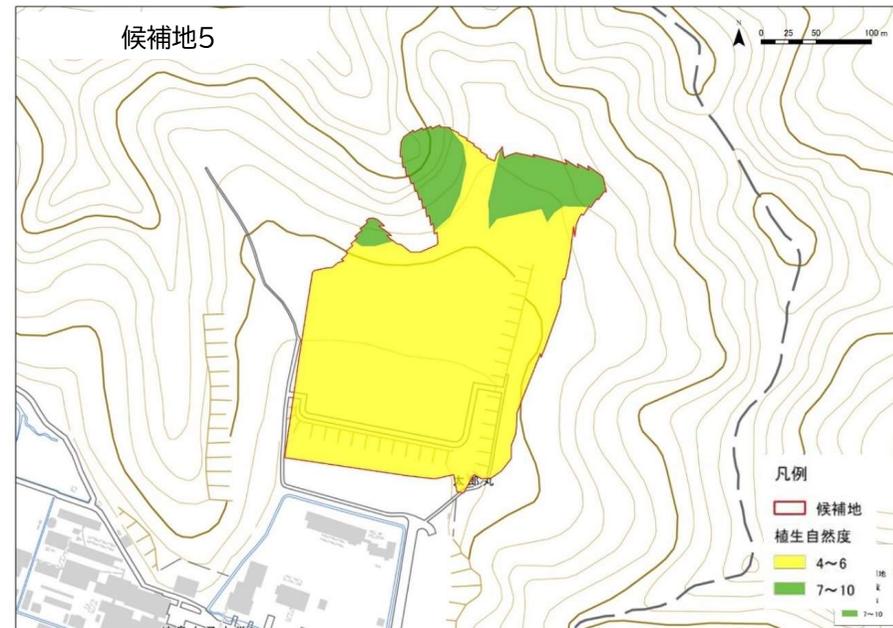
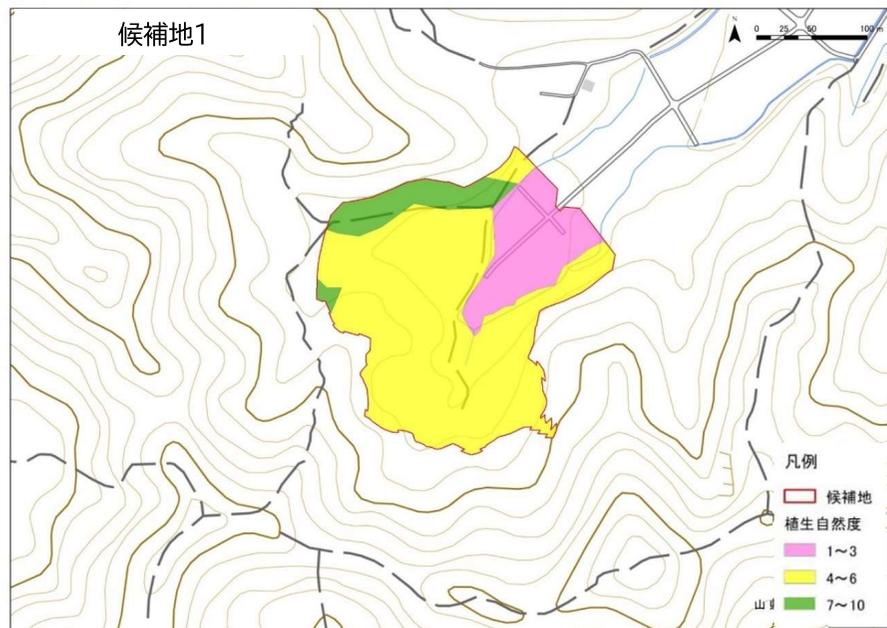
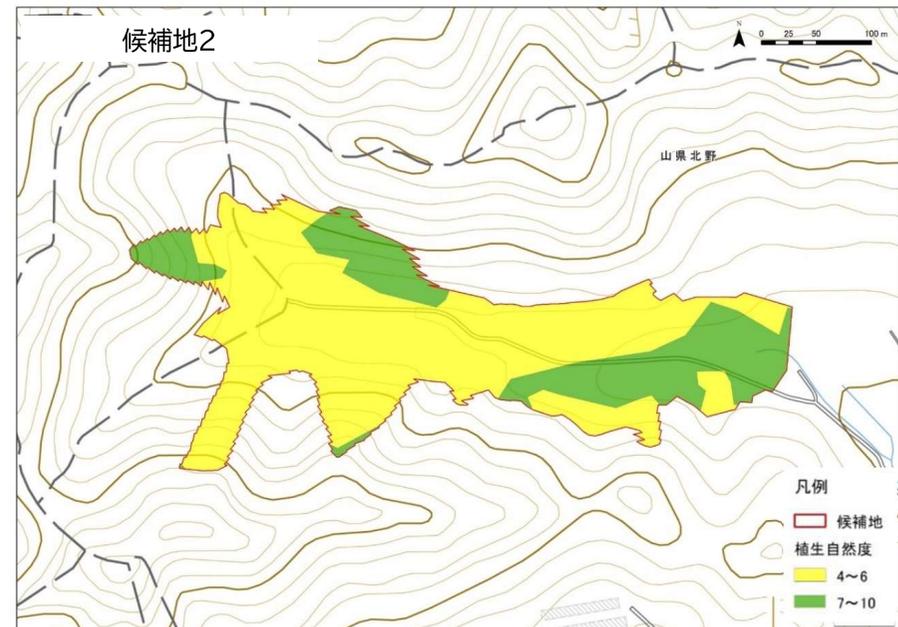
自然条件：自然の改変度

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
自然の改変度	配置計画図内の植生自然度(現存植生図(環境省))を評価	◎:植生自然度の高い植生(自然度7-10)の占める割合が0%である ○:植生自然度の高い植生(自然度7-10)の占める割合が30%未満である △:植生自然度の高い植生(自然度7-10)の占める割合が30%以上である

評価結果

候補地	評価	植生自然度の割合		
		高(7~10)	中(4~6)	低(1~3)
1	○	10%	72%	18%
2	○	28%	72%	0%
5	○	15%	85%	0%

植生自然度:人間の開発行為によって自然がどの程度改変されているかを植生の状況によって分類したもの



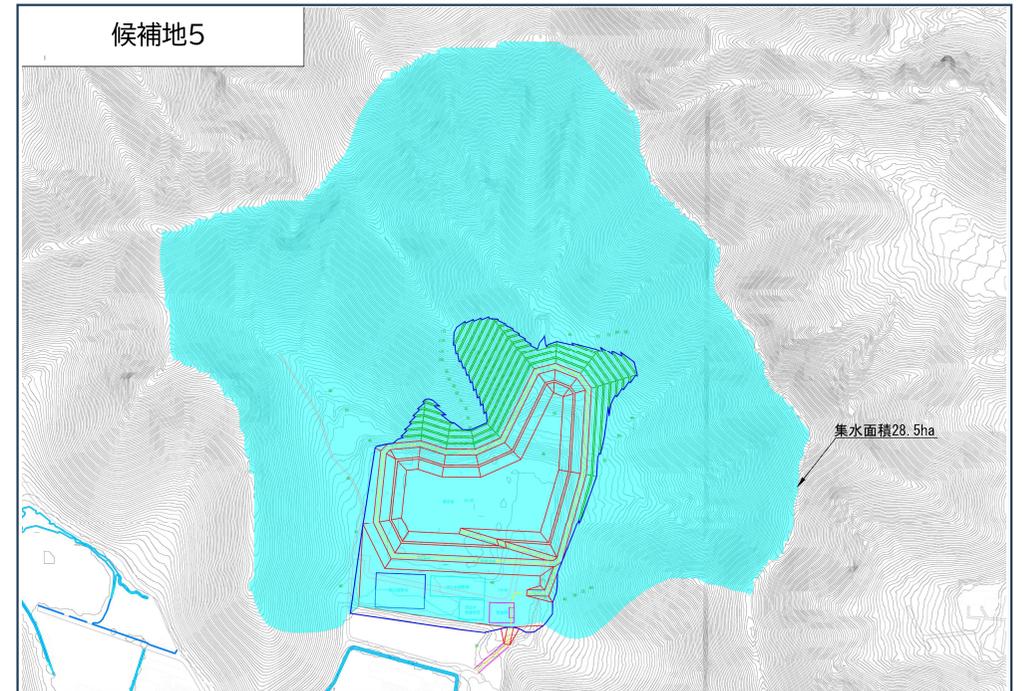
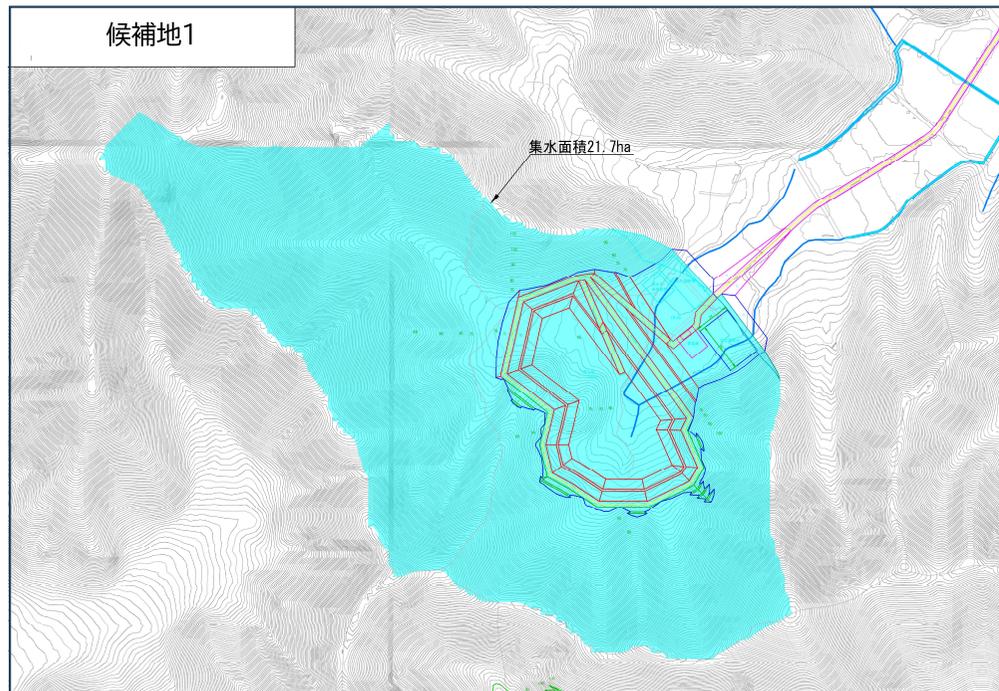
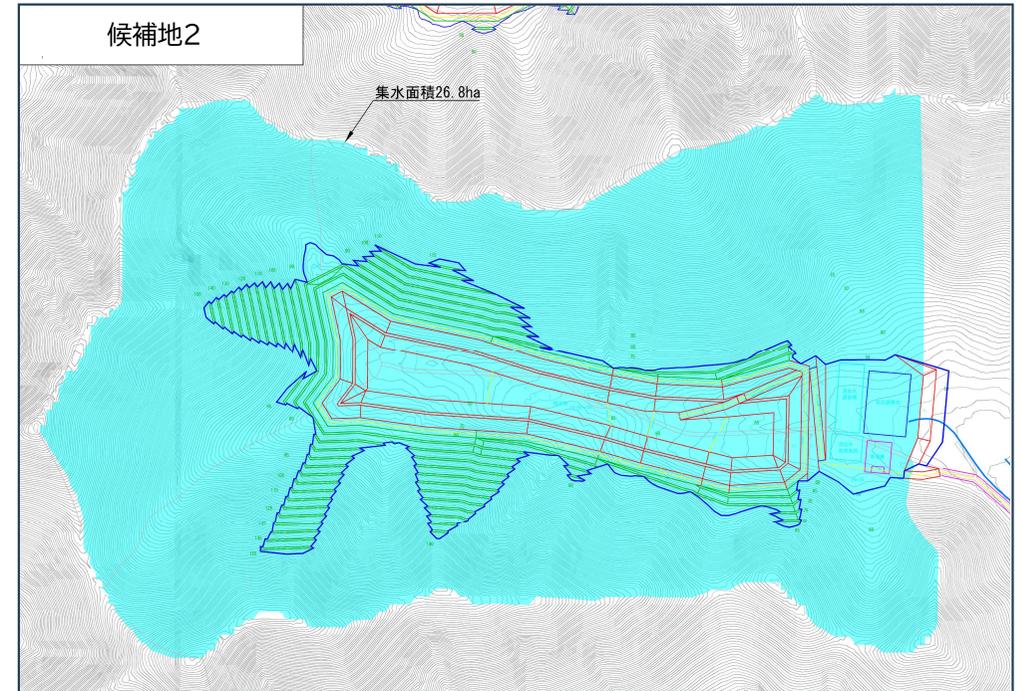
4-7. 評価根拠

自然条件：集水面積

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
集水面積	配置計画図に基づき、等高線をつなぎ集水面積を計測して評価	◎:集水面積が最も狭い ○:集水面積が平均値(25.7ha)より狭い △:集水面積が平均値(25.7ha)以上

評価結果

候補地	評価	集水面積	
1	◎	21.7 ha	平均 25.7 ha
2	△	26.8 ha	
5	△	28.5 ha	



評価及び最終候補地選定（案）

4-8. 評価根拠

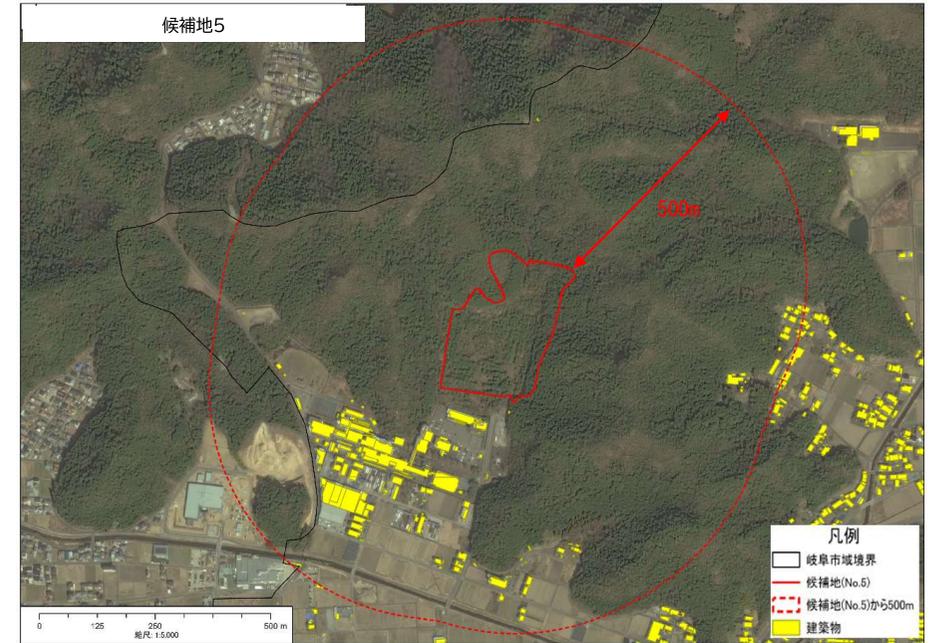
環境条件：生活環境への影響

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
生活環境への影響	配置計画図から500m範囲内の建物数を計測して評価	◎:500m範囲の建物が最も少ない ○:500m範囲の建物が平均値(82棟)より少ない △:500m範囲の建物が平均値(82棟)以上

※国土地理院基盤地図情報(令和5年)

評価結果

候補地	評価	建物数の状況	
		建物数	平均
1	○	32 棟	平均 82棟
2	◎	22 棟	
5	△	191 棟	



4-9. 評価根拠

環境条件：公共施設等(学校・病院等)との距離

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
公共施設等(学校・病院等)との距離	配置計画図から300m範囲内の建物数を計測して評価	◎:300mの範囲に存在しない △:300mの範囲に存在する

評価結果

候補地	評価	公共施設等の建物数状況
1	◎	存在しない
2	◎	存在しない
5	△	1 施設



4-10. 評価根拠

運搬条件： 運搬効率

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
運搬効率	廃棄物排出量と運搬距離の積を評価	◎: 運搬効率が最も優れる ○: 運搬効率が平均値(146kt・km/年)より少ない △: 運搬効率が平均値(146kt・km/年)以上

※積が小さいほど、運搬効率が良いことを表す

評価結果

候補地	評価	排出量(予測値)	運搬距離	排出量×運搬距離
1	△	12,326 t/年	12.8 km	158 kt・km/年
2	△		11.9 km	147 kt・km/年
5	◎		10.9 km	134 kt・km/年
				平均 146 kt・km/年

東部クリーンセンター ⇒ 候補地2



東部クリーンセンター ⇒ 候補地1



東部クリーンセンター ⇒ 候補地5



評価及び最終候補地選定（案）

4-11. 評価根拠

経済性：施工性

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
施工性	配置計画図内の切土量と盛土量を算出し、購入土量又は残土量を評価	◎：土量バランスが最も優れる ○：土量バランスが平均値(134,500m ³)より少ない △：土量バランスが平均値(134,500m ³)以上

評価結果

候補地	評価	切土(m ³)	盛土(m ³)	購入土量又は残土量(m ³)	平均 134,500
1	◎	66,000	101,800	35,800	
2	○	149,000	19,500	129,500	
5	△	254,000	15,900	238,100	

考察

候補地1	・土が不足するが、今後の詳細設計等で土量バランスを図ることは可能と考えられる。
候補地2	・沢筋の地形を利用したが、容量を確保するためには外周法面を大きく掘削する必要があり、大量の切土が発生、土量バランスを図ることは困難と考えられる。
候補地5	・平地で容量を確保するため、大量の切土が発生し、土量バランスを図ることは困難と考えられる。

4-12. 評価根拠

経済性：施設整備費・維持管理費

評価項目	評価項目の考え方	評価基準
施設整備費 維持管理費	施設整備費や維持管理費を算出し、経済性を評価(下水道配管の整備費用を含む)	◎：経済性が最も優れる ○：経済性が平均値(57,000円/m ³)より少ない △：経済性が平均値(57,000円/m ³)以上

施設整備費：最終処分場、搬入道路、管理道路、管理棟、浸出水処理施設及び調整槽、防災調整池、下水道配管等
維持管理費：埋立期間15年と埋立終了から安定するまでの期間を15年と仮定し、30年間の維持管理費の合計金額

評価結果

候補地	評価	(施設整備費+維持管理費)÷埋立容量	
1	◎	49,000 円/m ³	平均 57,000 円/m ³
2	△	59,000 円/m ³	
5	△	63,000 円/m ³	

(単位:千円)

項目	候補地1	候補地2	候補地5
施設整備費	5,447,923	7,119,186	8,095,602
維持管理費	3,778,500	4,042,500	3,778,500
合計	9,226,423	11,161,686	11,874,102
埋立容量(188,000m ³) 当たりの単価	49	59	63
	平均 57		

4-12. 評価根拠

経済性：施設整備費・維持管理費

施設整備費

施設整備費 (単位:千円)

項目	候補地1	候補地2	候補地5
A 埋立地工事	3,224,700	4,613,100	5,742,300
B 浸出水処理施設工事	1,591,000	1,743,000	1,591,000
C 下水道配管工事	136,957	115,887	26,338
概算工事価格 合計	4,952,657	6,471,987	7,359,638
概算工事価格(税込)	5,447,923	7,119,186	8,095,602

維持管理費

維持管理内容

項目	内容
人件費	浸出水処理施設を運転するための人件費
保守管理費	法定点検、法定点検以外の保守点検、修理、日常的な小部品の取替えその他一切の管理費
測定試験費	水質、騒音、振動、悪臭等の測定試験費
需用費	電気料、燃料費、水道料、薬剤費、消耗品費
修繕更新費	施設の劣化した部分、部材、機器又は低下した性能若しくは機能を原状(初期の水準)又は実用上支障のない状態まで回復させること及び劣化した部分、部材、機器等を新しいものに取り替える一切の更新費

維持管理費 (単位:千円)

項目		候補地1	候補地2	候補地5
条件	浸出水処理能力	100m ³ /日	110m ³ /日	100m ³ /日
埋立期間	15年間	1,650,000	1,755,000	1,650,000
	(税込)	1,815,000	1,930,500	1,815,000
埋立終了後	15年間	1,785,000	1,920,000	1,785,000
	(税込)	1,963,500	2,112,000	1,963,500
合計	(税込)	3,778,500	4,042,500	3,778,500

参考資料

評価項目及び評価基準について（第3回選定委員会より再掲）

各候補地に対して土地条件、自然条件、環境条件、運搬条件及び経済性の5つの観点から評価項目を設定し、配置計画図を踏まえ、最終処分場を立地するに相応しい候補地であるかを評価します。

なお、評価の配点は◎2点、○1点、△0点とします。

評価項目及び評価基準

区分	評価項目	評価項目の考え方	評価基準
土地条件	土地利用	現地及び空中写真による土地利用状況を確認	◎：配置計画図内が、休耕地等であり、土地利用されていない △：配置計画図内が、宅地・農地等であり、土地利用されている
	土地所有者	配置計画図内の公有地、私有地を確認	◎：公有地 ○：公有地私有地混合 △：私有地
自然条件	地形の状況	配置計画図内の崩壊地形の有無を確認	◎：配置計画図内に崩壊地形が認められない △：配置計画図内に崩壊地形が認められる
	地質の状況	配置計画図内の軟弱地層の有無を確認	◎：経年の堆積物等がなく、地質が強固で沈下等が起こる可能性が低い △：経年の堆積物等が存在し、地質が軟弱で沈下等が起こる可能性が高い
	希少動植物の確認状況	希少動植物の生息・生育(岐阜市の自然情報(岐阜市自然環境基礎調査))を確認	◎：配置計画図内及びその周辺(500mの範囲)において希少動植物が生息・生育する可能性が低い ○：配置計画図周辺(500mの範囲)において希少動植物が生息・生育する可能性が高い △：配置計画図内及びその周辺(500mの範囲)において希少動植物が生息・生育する可能性が高い
	自然の改変度	配置計画図内の植生自然度(現存植生図(環境省))を評価	◎：植生自然度の高い植生(自然度7-10)の占める割合が0%である ○：植生自然度の高い植生(自然度7-10)の占める割合が30%未満である △：植生自然度の高い植生(自然度7-10)の占める割合が30%以上である
	集水面積	配置計画図に基づき、等高線をつなぎ集水面積を計測して評価	◎：集水面積が最も狭い ○：集水面積が平均値(25.7ha)より狭い △：集水面積が平均値(25.7ha)以上
環境条件	生活環境への影響	配置計画図から500m範囲内の建物数を計測して評価	◎：500 m範囲の建物が最も少ない ○：500 m範囲の建物が平均値(82棟)より少ない △：500 m範囲の建物が平均値(82棟)以上
	公共施設等(学校・病院等)との距離	配置計画図から300m範囲内の建物数を計測して評価	◎：300 mの範囲に存在しない △：300 mの範囲に存在する
運搬条件	運搬効率	廃棄物排出量と運搬距離の積を評価	◎：運搬効率が最も優れる ○：運搬効率が平均値(146kt・km/年)より少ない △：運搬効率が平均値(146kt・km/年)以上
経済性	施工性	配置計画図内の切土量と盛土量を算出し、購入土量又は残土量を評価	◎：土量バランスが最も優れる ○：土量バランスが平均値(134,500m ³)より少ない △：土量バランスが平均値(134,500m ³)以上
	施設整備費・維持管理費	施設整備費や維持管理費を算出し、経済性を評価(下水道配管の整備費用を含む)	施設整備費：最終処分場、搬入道路、管理道路、管理棟、浸出水処理施設及び調整槽、防災調整池、下水道配管等 維持管理費：埋立期間15年と埋立終了から安定するまでの期間を15年と仮定し、30年間の維持管理費の合計金額 ◎：経済性が最も優れる ○：経済性が平均値(57,000円/m ³)より少ない △：経済性が平均値(57,000円/m ³)以上